



房川卸船渡図[天保十四年]

12代将軍家慶の時代に描かれたもので将軍が日光東照宮に参詣するために利根川に船橋をかけている様子。場所は埼玉県栗橋町付近。

出典「明治以前日本土木史」

# 江戸

## 時代の

# 利根川

## 大河の誕生に秘められた歴史

江戸幕府を開いた徳川家康の命により、希代の土木事業として行われた利根川の東遷。この関東平野の大動脈と言える

大河の再生によりこの地を根拠とする森羅万象がその構造・組織を一変させている。そしてその真の目的は未だ謎のベールに包まれている。

しかし、目的の如何を問わず

経済・防衛・治水など…

新生・大河が生み出した波及効果は

計り知れないものがあつた。

そしてその栄華の影には数えきれぬ

英知と汗の存在が確実に息づいていた。



## 利根川の東遷

“利根川の東遷”といわれる江戸時代初期に行われた利根川の大改修は、それまで東京湾に注いでいた利根川の流水の一部を東側の常陸川筋に導き、現在の利根川水系の基礎をつくりました。その中心となるのは、文禄三年(1594)の「会の川の縮切り」から承応三年(1654)赤堀川の通水までの、六十年間の河川改修に集中されています。

